

## 本書を利用される方へ

- 1 この「保健統計年報」(人口動態統計編)は平成22年の人口動態統計についてとりまとめたものである。出生、死亡、死産については平成22年中に発生したもので、平成23年1月14日までに届け出られた日本人の日本における事件を住所別(平成22年12月31日現在)に集計したものである。婚姻、離婚は、平成22年中に届け出られた日本人の日本における事件を、婚姻は夫の住所別別に、離婚は別居する前の住所別別に集計したものである。計数は可能な限り厚生労働省の人口動態確定数を用い、公表されていない計数については県医務課集計によった。

### 2 用語の解説

自然増加数	出生数から死亡数を減じたもの
乳児死亡率	生後1年未満の死亡
新生児死亡率	生後4週間未満の死亡
早期新生児死亡	生後1週間未満の死亡
死産	妊娠満12週以後の死児の出産
周産期死亡	妊娠満22週以後の死産に早期新生児死亡を加えたもの

### 3 統計の記号の用法

計数のない場合	—
統計項目のありえない場合	・
計数不明又は計数を表章することが不適当な場合	…
比率が微小(0.05未満)の場合	0.0

(この報告書に掲載の数値は四捨五入のため、内訳の合計が総数に合わない場合もある。)

### 4 本書に用いた各比率の算出方法(人口1,000対率の場合)

$$(1) \text{出生・死亡・婚姻・離婚率} = \frac{\text{年間出生(死亡・婚姻・離婚)数}}{\text{10月1日現在日本人口}} \times 1,000$$

$$(2) \text{自然増加率} = \frac{\text{年間出生数} - \text{年間死亡数}}{\text{10月1日現在日本人口}} \times 1,000$$

$$(3) \text{乳児死亡率} = \frac{\text{年間乳児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$$

$$(4) \text{新生児死亡率} = \frac{\text{年間新生児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$$

$$(5) \text{死産率} = \frac{\text{年間死産数}}{\text{年間出産数(出生数+死産数)}} \times 1,000$$

$$(6) \text{早期新生児死亡率} = \frac{\text{年間早期新生児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$$

$$(7) \text{周産期死亡率} = \frac{\text{早期新生児死亡数} + \text{妊娠満22週以後の死産数}}{\text{年間出産数(出生数+妊娠満22週以後の死産数)}} \times 1,000$$

$$(8) \text{死因別死亡率(年間)} = \frac{\text{年間の死因別死亡数}}{\text{10月1日現在日本人口}} \times 1,000$$

$$(9) \text{年齢調整死亡率(人口10万対)} = \frac{\left\{ \begin{array}{l} \text{観察集団の各年齢} \\ \text{(年齢階級)の死亡率} \end{array} \times \begin{array}{l} \text{基準人口集団のその年齢} \\ \text{(年齢階級)の人口} \end{array} \right\} \text{の各年齢} \\ \text{(年齢階級)の総和}}{\text{基準人口集団の総数}} \times 100,000$$

$$(10) \text{標準化死亡比(SMR)} = \frac{\text{現実死亡数}}{\text{期待死亡数}} \times 100 = \frac{\text{地域の死亡数}}{\text{(地域の年齢階級別人口} \times \text{年齢階級別全国の死亡率)の総和}} \times 100$$

$$(11) \text{母の年齢階級別出生率} = \frac{\text{ある年齢(年齢階級)の母が1年間に産んだ子の数}}{\text{ある年齢(年齢階級)の日本人女子人口}} \times 1,000$$

$$(12) \text{合計特殊出生率} = \left\{ \frac{\text{母の年齢別出生数}}{\text{年齢別総人口女子人口}} \right\} \text{15歳} \sim \text{49歳までの合計} \\ \text{(都道府県別は5歳階級で算出し、5倍したものを合計している)}$$

$$(13) \text{総再生産率} = \left\{ \frac{\text{母の年齢別女兒出生数}}{\text{年齢別女子人口}} \right\} \text{15歳} \sim \text{49歳までの合計}$$

### 5 比率算出に用いた基礎人口

- (1) 全国、佐賀県に用いたもの  
平成22年国勢調査による基準人口(国籍及び年齢不詳人口をあん分済人口)(日本人口)(総務省統計局)  
(平成22年10月1日現在) 全国 126,381,728人  
佐賀県 846,146人 [男 398,787人  
女 447,359人]
- (2) 地域別に用いたもの  
平成22年国勢調査人口-日本人口(県統計調査課) 48ページ参照

### 6 死因分類

本書では、平成7年から、WHO(世界保健機関)が定めた1990年改正の「疾病及び関連保健問題の国際統計分類第10回修正」(ICD-10)を使用している。これに伴う死因分類の改正により、死因の年次推移は完全な内容の一致をみることはできない。